

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年7月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104548
法人名	医療法人 敬天会
事業所名	グループホーム いしき
所在地	鹿児島市伊敷台4丁目34番50号 (電話) 099-229-1010
自己評価作成日	平成27年6月17日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

団塊の世代が高齢者の年代に突入となった現在、いくら認知症の病気の解明が待たれようと、多くの認知症の方々が不安の毎日を送られておられます。そんな中グループホームはなお多くの方々が入所して生活したいと考え、施設探しをしておられるようです。当施設は開設10年目を迎え、単独施設としてなんとか運営をして参りました。一人一人の生活や本人の大切にしてこられた物や思いを大事にしながら、残りの人生を楽しく生活していただきたいと取り組んで参りました(元旦からの新年会もそうです)。「あそこの施設に入りたい」と望まれる施設を目指しています。レクリエーションや機能訓練などを通し、生き甲斐や張り合いに繋がっている利用者もいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームはデイサービスも併設された施設であり、鹿児島市北部の高台に建てられている。振興住宅街の一角に位置し、近隣には大型スーパーや医療機関などがあり利便性に恵まれた環境にある。同敷地内には系列の介護付き有料老人ホームも隣接しており、非常災害時や法人の夏祭り等、連携を取り、双方で協力体制が出来ている。

医療連携体制が整い、急変時や入所時から希望の多い看取りについても、24時間オンコール体制の完備や看護師の配置もあり、日常の健康管理から終末期ケアの対応に至るまで利用者、家族の安心に繋がっている。

職員、管理者は日々、利用者の心身の状態把握を密に行い、個々の介護計画書に目を通し、計画通りのサービスが提供できているかチェック表で確認を行っており、各々がその人らしい生活を送れるように現状に添った支援に努めている。

毎月ホーム便り「いしき通信」を地域包括支援センターや近隣の居宅介護支援事業所へ配布し、積極的にホームの情報発信に努めている。開設10年目を迎え、新たな取り組みとして地域の廃品回収や清掃活動への参加なども検討しており、今後更に地域との関係構築に努める意向である。

理念を根幹に、常に利用者へ寄り添い、季節感を大切に「ここが最期、ここが家」、利用者へそう言って貰える様に、職員は日々丸となってホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念の唱和をして、意識付けしている 毎月、行事を実施している	開設当所に職員全員で作った「い・し・き」で始まる理念を掲げている。職員は中身をしっかりと理解し、個々に合ったケアを取り入れ日々の実践に向けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1度の運営推進委員会議には、民生委員さん、ご家族の参加をいただいている 地域の小学校との交流がある	民生委員をパイプ役とし、地域情報を収集している。小学生の体験学習や法人の夏祭りは地域住民との大切な触れ合い行事として恒例になっている。開設10年目を迎え、地域の廃品回収や清掃活動への参加も新たな取り組みとして検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	実習生の受け入れ、ボランティアの行事参加等で認知症の理解や接し方を深めてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、民生員、ご家族、職員を交えて二ヶ月毎に開催して意見交換を実施している 利用者様の介護度、施設の空所状況を伝えている	二ヶ月毎の定期開催であり、地域包括、民生員、家族代表、他の出席のもと、意見交換等が行われサービス向上に繋げている。マンネリ化傾向にある為、会議の内容や出席者の固定化、開催日時などを見直す方向である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域包括センターには、いしき通信でホーム内の状況を月一回伝えている</p>	<p>ホームの広報誌を、地域包括センターなどに配布し、情報提供を行っている。介護保険の更新時や相談を通して、情報交換も随時行い、市の担当者とも良好な協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設けて月一回の全体会議の中で身体拘束について発表し、意見交換を行っている。院内研修の中でも身体拘束を取り上げ勉強会をしている</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設け、事例を題材とした勉強会も行っている。具体的な行為について、職員はよく理解しケアにあたっている。外出傾向の利用者もいるが、職員の見守りと連携のもと、抑制のない自由な暮らしを支援している。転倒防止に居室の床にマットを敷くなどリスクへの配慮もみられる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての話し合いを持ち、院内研修の中で虐待防止について学んでいる</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度について勉強会をした事はあるが、管理者が対応するので、他の職員は理解が乏しい</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は家族に対し、内容を十分説明している 利用料金等についても、細かく説明して同意を得ることになっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には月一回いしき通信にて施設の情報をお知らせし、担当職員がコメントを書いている。運営推進委員会にご家族の参加をいただき、率直な意見を出してもらえるように心がけている	家族の面会が多い事もあり、意見や要望の聞き取りの機会になっている。月1回のホーム通信を活用し日頃の利用者の様子やホームの現情報告を行いながら、独自の家族アンケートも行っており、出された率直な意見は全員で話し合い、サービスの質の向上に繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議、毎週金曜日の定例会等で理事長を交えて利用者の様子や起こっている問題を取り上げている	職員は全体会議や日常のケアを通して管理者には意見を言い易い雰囲気が出来ている。レクリエーション時に使用するホワイトボードも職員の要望で購入されており、現場の職員ならではの気付きやアイデアはサービスの向上に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員への転換、夜勤手当、皆勤賞、時給等見直しを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>院内研修で学習会を開いてやったり、社会福祉協議会の主催する研修会を受講している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>実施研修会で知り得た管理者の方との交流を持ったり、2, 3ヶ月に1回、近況を話し合う場を設けている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用については、事前に面談を実施し、本人の思いや不安を受け止め安心感を与えられるよう努めている</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族が求めているものを理解し話し合い、事業所としてどのような対応ができるか、話し合いすることに努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人やご家族の思い、状況等を確認し、いろいろな選択肢の中から、本人により良いサービスが提供できるようにしている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の思いや苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、お互いが協働しながら、共に支えあえる関係づくりに留意している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日頃の様子を伝えることで家族の理解を得て、本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会等、連絡をしている	入居時に得た家族からの情報や生活歴を把握している。友人の面会や家族が墓参りに連れ行く利用者もいる。年賀状や暑中見舞いの付き合いも継続しており利用者の個々に応じたこれまでの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性について、職員が情報を共有し、注意深く見守り、レクリエーション等に参加を促し、楽しく過ごせる支援を心がけている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や暑中見舞状等を送付している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認している	利用者の意思決定を重視しており、投げかけをして表情や所作から思いの汲み取りが出来るように努めている。支援経過に記録を残し、職員間で情報の共有を図り介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の利用者様とのコミュニケーションの中で、昔の思い出や体験を聞かせてもらい、また、面会に来られたご家族からも情報をもらったりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに行動や小さな動作から感じ取り、生活、心理面の視点や、出来ない事より出来る事に注目しその人全体の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で月1回のカンファレンスを実施し、意見交換を行っている	利用者や家族からの意見、要望の聞き取りを下に、カンファレンスを実施している。職員全員でサービス内容を共有し、プラン通りのケアができてきているか、実施状況をチェック表で確認している。毎月、モニタリングを行い、現状に即した介護計画になるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認出来るようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	二ヶ月に一回訪問散髪 週一回の脳活性リハビリに参加し、緊急時の受診等実施している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設での行事等の時、社会福祉協議会のボランティアによる催し物等に來ていただいている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時よりのかかりつけ医は大事にしているが、重症化に伴い在宅医への変更を提案し、ご家族の了解を得ている	受診については入居前からのかかりつけ医を継続している。利用者の身体状況も踏まえ、在宅医への切り替えを提案し、家族の同意を得ており、月に1、2回の往診も対応している。看護師の配置や緊急時も24時間医療連携体制が整い安心できる環境にある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている 看護職員がいない時間は介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されたら情報提供書を送付しお見舞いや退院等看護師より連絡を受けている。紹介された病院へは主治医を変えることなく出来るだけ受診していただけるように協力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化に伴う意思確認書を作成し事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。終末に対する対応指針を定め家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。また状態の変化があるごとにご家族の気持ちの変化を本人の思いに注意を払い支援に繋げている	重度化や終末期に向けた指針を定め、入所時に終末期ケアについてのホームの方針を説明している。看取りの経験もあり、今後も殆どの利用者が看取りを希望している。終末期には段階を踏まえた話し合いを重ね、家族との同意書を取り交わしている。職員も主治医の指示の下、方向性を共有し最大限のケアが出来るように知識や経験を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が年に一回の応急手当の勉強会やAEDの使用法を学び、体験・体得・習得するようにしている。また夜勤時の緊急時対応についてマニュアルを整備し周知徹底を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練を実施し、1回は夜間想定の実施を行っている</p>	<p>夜間想定の実施を含め年2回の消防訓練を実施している。消火、通報、避難誘導の班に分かれた確かな避難体制で安全確保に向けている。コンセント出火には注意を払い、まめに点検を行っている。家族の面会時や行事参加の機会に訓練を行い、避難誘導の現状確認を含めた家族参加の避難訓練も今後、視野に入れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちも大切に考えてさりげないケアを心がけ、自己決定を促すような言葉かけをするように努めている	その人らしい生活支援を心掛けており、排せつ誘導時の声かけや異性介助などの羞恥心へは特に配慮し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。名前も「さん」付けで呼び、馴れ合いの関係にならない様に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より利用者様への声かけで、本人の希望などを聞き、対応するように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合が優先する時もあるが、1日の流れの中で、利用者様に合ったペースを見極め、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替える時等、本人に選んでもらうようにしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の誕生日には、好きなメニュー作成を実施している行事等の時は行事食を提供し、喜んで頂いている	法人の管理栄養士が作成した献立は、食材も豊富で冷凍食品は使用せず、野菜や肉、魚も生鮮食材を発注している。花見弁当や誕生日のお祝い食など、行事食も利用者の楽しみになっている。状態に応じ、刻みやミキサー食で咀嚼や嚥下に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分の摂取量を記録し、把握に努めている。誤嚥を起しそうな利用者様には、柔らかい物やトロミ食等工夫して提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じたケアを行っており、介助が必要な方は、スタッフが付き添い介助している。又、義歯の方には、夜間ポリデント誘導を行い、支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状況を把握し、声かけ等して誘導を行っている立位の可能な方はできるだけトイレ誘導を行い、支援している	自立の利用者も多いが、尿意のない利用者でも記録や様子観察からさりげなく誘導しトイレでの排泄の自立に向けている。職員の見守りと排泄パターンの把握により、夜間のオムツ使用からリハビリパンツに改善した利用者も居る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを実施しており、排便パターンを把握し、便秘の時など、服薬等の対応を実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	なるべく浴槽内に入れるように支援しているが、出来ない方にはシャワー浴を実施している。週3回の入浴を実施している	入浴は週3回の支援だが、希望に応じ回数や順番などは柔軟な対応である。浴槽に浸かる利用者も多いが、全介助用にタライも備え身体状況を問わず、入浴の時間がリラックスできる工夫をしている。異性介助へも配慮し入浴が苦にならないように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努め、寝つけない時には飲み物をすすめたり、おしゃべりをする等配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ケースに一人ひとりの名前が記載されており、服用時には日付等確認し、本人に手渡し、服用するまで見守りをしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かせる分野を把握し、洗濯物たたみ、おしぼりたたみ、新聞たたみ等協力して頂いている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調や希望にそって花のある時期等、戸外に散歩に出かけたり、車で少し遠い所までドライブしたりしている。春は花見、秋はコスモスを見に行っている	天候や体調に応じ、ホーム近隣の散歩は日常的である。年間で季節ごとの外出計画を組み、特殊車両で車椅子の利用者でも四季を肌で感じられる機会を設けるように支援している。人員配置のゆとりをみて甲突川添いのドライブや家族と共に外食や墓参りをする利用者もおり、社会との繋がりや五感の刺激を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つ事の大切さは理解しているが、現状については現金を使うような事がないので、利用者様本人が所持していることは少ない</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が希望されれば、電話をかけて話して頂いている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは、利用者様の作成された物を掲示している。 居室に関しても、本人の希望される物を置いてもらっている</p>	<p>リビングは広々と明るく、臭いも無く清掃が行き届き清潔である。温度、湿度は程よく調整されている。利用者はソファやテーブルで思い思いの時間をゆったりと過ごしている。テーブルや壁には季節の花や作品が飾られ時節を感じ取れる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間では気の合った利用者同士が隣り合わせであったり、一人で落ち着けるリクライニングのイスを配置してくつろげるよう工夫している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>寝具や棚、写真を持ち込まれ、それぞれの利用者様の居心地のよさに配慮している</p>	<p>テレビや馴染みの深いテーブルセットなどや位牌を置いたり、壁には家族の写真や自前の作品を飾るなどし、個性のある居室作りになっている。転倒防止にホーム側で床にマットを敷き、リスクへの配慮も行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>身体が自由に動ける方には出来ること、洗濯物たたみ、お盆拭き、おしぼりたたみ等やりやすいようにテーブルを配置している</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない